

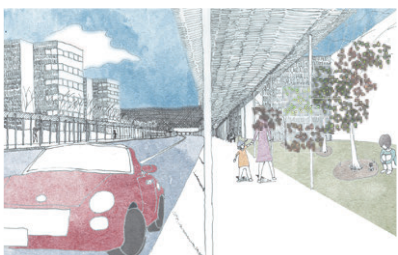
## みんなで作るあたらしいまちのかたち

真駒内のまちを実際に歩くと、人々の生活の断片や、地域が持つポテンシャルがたくさん散らばっているものの、それぞれが重なることはなく、独立している印象を受けました。

本提案では、真駒内に暮らす人々が、もっとまちを歩きたくなるきっかけ、生活の断片が重なって共有できるしくみ作りを目的に、[歩道][駅][祭]の3つを提案します。

それぞれに人々の小さなアクティビティを持つ3つの提案。そこから生まれる日常と非日常のシーンは、交わり合いながら新たな真駒内の魅力をつくります。

### 1. 暮らしが重なる歩道



### 2. 森とまちをつなぐ駅



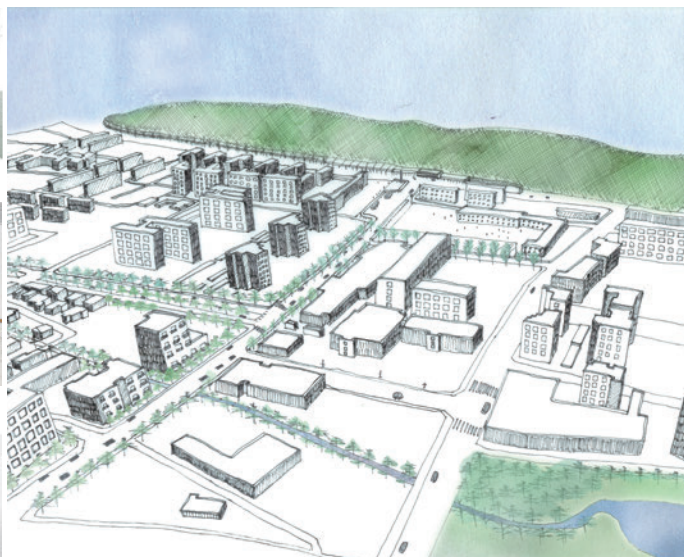
### 3. 特別な時間が流れる祭



駐輪場を駅へ移設して整理し、屋根をかけ、滞留がうまれる歩道のデザイン。

1971年に開設し、建替の時期を迎える真駒内駅を、森とまちをつなぐ駅へ新たに設計。

真駒内の歴史・季節をコンセプトとした、駅を中心に広がる祭の計画。



真駒内が位置する札幌市南区は、消滅可能性都市の一つとなっています。

30年先の2040年、さらにその先の未来を考えたときに  
大規模な計画や人口の増加を目的とするのではなく  
真駒内に暮らす人々の生活の豊かさ、活気こそ大切であると感じました。

本提案を通して真駒内の魅力を再考することで  
人々の生活に根付くしくみが新たにうまれると考えます。